

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】平成27年6月18日(2015.6.18)

【公開番号】特開2012-256593(P2012-256593A)

【公開日】平成24年12月27日(2012.12.27)

【年通号数】公開・登録公報2012-055

【出願番号】特願2012-105552(P2012-105552)

【国際特許分類】

H 05 B 33/10 (2006.01)

H 01 L 51/50 (2006.01)

H 05 B 33/06 (2006.01)

H 05 B 33/04 (2006.01)

【F I】

H 05 B 33/10

H 05 B 33/14 A

H 05 B 33/06

H 05 B 33/04

【手続補正書】

【提出日】平成27年4月28日(2015.4.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

閉曲線を有する吐出口より粉末ガラスとバインダを含むペーストを吐出させ、前記ペーストにより第1のガラス基板上に閉曲線を有する隔壁を設ける工程と、

前記隔壁を加熱し、前記バインダを揮発させると共に前記粉末ガラス同士を融合させてフリットガラスとする工程と、

前記フリットガラスと第2のガラス基板とを加熱して溶着させ、前記フリットガラスと前記第1のガラス基板と前記第2のガラス基板とで閉空間を形成する工程と、を有することを特徴とするガラス封止体の作製方法。

【請求項2】

閉曲線を有する吐出口より粉末ガラスとバインダを含むペーストを吐出させ、前記ペーストにより第1のガラス基板上に閉曲線を有する隔壁を設ける工程と、

前記隔壁を加熱し、前記バインダを揮発させると共に前記粉末ガラス同士を融合させてフリットガラスとする工程と、

第2のガラス基板上に発光素子を形成する工程と、

前記フリットガラスと前記第2のガラス基板とを加熱して溶着させ、前記フリットガラスと前記第1のガラス基板と前記第2のガラス基板とで閉空間を形成して前記発光素子を前記閉空間に密封する工程と、を有することを特徴とする発光装置の作製方法。

【請求項3】

閉曲線を有する吐出口より粉末ガラスとバインダを含むペーストを吐出させ、前記ペーストにより第1のガラス基板上に閉曲線を有する隔壁を設ける工程と、

前記隔壁を加熱し、前記バインダを揮発させると共に前記粉末ガラス同士を融合させてフリットガラスとする工程と、

第2のガラス基板上に発光素子を形成する工程と、

前記フリットガラスと前記第2のガラス基板とを加熱して溶着させ、前記フリットガラスと前記第1のガラス基板と前記第2のガラス基板とで閉空間を形成して前記発光素子を前記閉空間に密封する工程と、を有し、

前記発光素子の電極につながる端子の一部は、前記閉空間の外に位置し、

前記端子と重なる前記フリットガラスに前記端子の凸部と噛み合う凹部を設けることを特徴とする発光装置の作製方法。

【請求項4】

第1のガラス基板上に発光素子を形成する工程と、

閉曲線を有する吐出口より粉末ガラスとバインダを含むペーストを吐出させ、前記ペーストにより前記第1のガラス基板上に前記発光素子を囲む閉曲線を有する隔壁を形成する工程と、

前記隔壁を加熱し、前記バインダを揮発させると共に前記粉末ガラス同士を融合させてフリットガラスとする工程と、

前記フリットガラスと第2のガラス基板とを加熱して溶着させ、前記フリットガラスと前記第1のガラス基板と前記第2のガラス基板とで閉空間を形成して前記発光素子を前記閉空間に密封する工程と、を有することを特徴とする発光装置の作製方法。